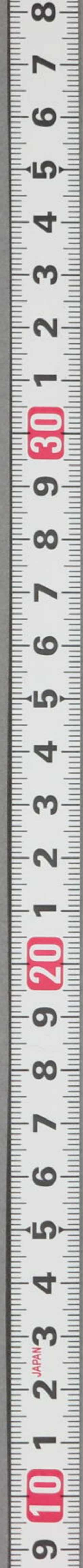


北
一
り
草
上

~10
7379
2





藤房

藤房ハ万里小者大綱言宣房の長男小〜後醍醐天
 皇の薨臣也性忠純小〜志節有且博學強記小〜
 正位位小中納言にをむ元弘〜之と東夷の難を逢
 小山が竺竺の味〜籠〜せり小藤房及い舍身季房亦
 随い〜〜終〜逆臣の爲〜存保〜〜之と八咫が
 一流〜花のい藤房ハ常州〜配せ〜正慶小朝敵多時
 亡〜建武〜之と後位〜玉の藤房ハ帰〜政〜
 海の逆浪忽ち徳〜〜一統の氏〜進〜京師
 静〜朱〜六〜〜之と花若選拉小醜み〜

光ツ大内表道宮有る〜〜諸國の地込二十分の
切課と懸らね我ハ風測の馬二系有る〜馬場殿と
離宮と建たね帯〜心奉成〜分奉〜蹴鞠の弓小弓
馬の達者と召ね〜競馬並懸と叙覽有〜無〜
玉い政事多く〜准后の口入〜〜貴封印〜〜
初〜元亨以来我切有奉〜忠貴と召〜
洞尾たあ〜智〜実世と上郷〜
新〜福を又石ふ〜媚と〜上岡と採め〜
正統〜あ〜と〜お〜と返されて上郷と改〜藤房
〜命せ〜れ〜忠言と記〜淡海と分〜
沙汰せん〜〜准后〜使り〜内奉秘計〜
只今を朝歌たり〜若き女依治り〜忠告〜
不の不依と治り〜藤房依〜病と称〜
川と辨〜〜州の任人依治判友高貞此
方々々希代の駿馬と進奏を〜別叙覽有〜
我朝〜天馬の出る例と史を映〜代小高り〜
〜良馬出る〜吉出〜心守者〜洞院相
公賢〜是吉事〜あ〜房星の精馬と化〜
〜天の心と落〜吉事〜非と〜奉〜
〜と〜運辨の心守色〜止り〜

後世言教度し及ふといふも昔々史而論も後房
存むる事と知く月近き活弁山乃右倉
紐子羅築世も多し程都をさく一と結
く川方知し事

後房の山と浮世の人活し

嵐や危のねるる人

其後後房の在りしと知く人ありしとありし曆意の江
新田義貞の臣細六所居の時能義前國守栗山
く藤房く細六の事と云ふ事ありしと云
す事ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありしと云

多しといふ事と隠しと右と云ふ事と結せし

交りし事と浮世の人の活なりし

空川まゝに宿求なりん

おはれと云ふ事と結しる事と藤房の事ありしと云
ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありしと云
洞院実世と書と云ふ事ありし

君は伊む岩乃ありしと云ふ事ありし

むしと云ふ事と墨深乃と云ふ

実世是と云ふ事と藤房の事ありしと云ふ事ありし
事ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありしと云

貧穢子〜老暮〜解平〜或ハ病身〜〜出世の
秋〜ふき身〜ゆに控難〜浮世からに況官禄未滿〜色
少徳人〜結齡ぬいま〜不達盈人の父母妻子と控たふ
幸惜と爲〜是と〜古今業のの者極と〜ん〜或ハ
恩過の君〜別ま〜二君〜仕居〜と世と造る〜と或
峯の宗貞原基の中洞言吉回兼好の影也或ハ色欲〜
迷〜一色後記〜〜造る〜とを後或者壺を〜沙藤
流石小糸は影の影是や或ハ最老の女〜列ま〜と世と
造る〜ハ花山法皇大ハ定基の影是也或ハ男〜別ま〜
世造造る〜と大坂の虎子代徳白島門依或ハ男〜控た
禮世造造〜と室乃控女玄珠神王神女権苗の影二
或ハ父母〜別ま〜と世と造る〜と平之節貞辺白拍子
微妙の影是也或ハ名利と厭い世と造る〜と岡崎皇
子後房言光肥後長門新文依後憲清の影是也或ハ
世に控らま〜と世と造る〜と惟高親王建禮門院平判友
庸影の影是也或ハ砂と〜と世と造る〜と信濃前同影
長若影少於暗後の影是や新暗成振舞と七人の影
た〜と世と造る〜と

造世の造〜時代〜善治人

世〜と世と造る〜と貧乏

實に皇の遺世者の遍昭る元慶寺の生ると成信正に
補せしき輩と許す能又又覺く神護寺の信成とあり
三人と當りしきし一に新の美之世と云ふる邊人信あり

花山法皇の宮の君と通ひあり兼好の成忠と女と密契
すむ睦と會らぬがむし一に介する遺世の名のし少く
身と迷ひ死すり迷ひ世とく浮遊し一に君と君と
そ哀れ牧者と為りし藤房の如く遺世の世と願
て山林と隱し一に生涯と終りたる一希也技桑隱逸傳
藤房進一に別君と忠ある遺一に弘く忠有と云ふ
九宮と頻りし感歎し一に是は凡心存かりし一と笑先生

もまゝ藤房と具原一にあり藤房忠臣也と一に共
君と誅し一に是をく神と志ありし一に終り身退一に本
文と一に叶ひのし一に志忠のの振舞いと世を住者甲
府宰相継重のの近臣根津守重の君に誅し一に身死
本としとも程心忠臣の英魂死し一に滅せし世に成り
平日のやく小袖上下と名一に清前近一に成世誅を教
し一に及たれは一に程重乃継重の共忠烈と感一に
吾をくゆ一に西根津の英魂と神と崇めし別根
津信成は是ありし一に守重の誅し一に君と首を
ゆせ一にゆい一に誅し一に古守と双の忠臣也藤房何と死

とくく深く許り君と昔さくゆせしうとや。他と見か
うく枝けは子成道きしと一己と女とのふく志
忠く此を隠逸ゆり藤房進く創君の忠者としとら
許と魚し思く似し忠者と之を藤房のかりて
常さくあは元々神國の生れて神の心末の神道
と仕くく黄門侍衛の位に居る者と新つり入先祖
朝代の血脈と結し新迦の民族となりしと不孝
乃甚しと小あしとやあは情が藤房さくあり賢也
有く忠孝と云くし何の意の有や予は能く能く利
と違く隠ししと世乃望人好臣北と甚愛もち有り
今の侍衛女と後をときとしと母と念うるは情より
つし被おのりてんまは一向言く道り其る

義貞

義貞は清和天皇の正統しと新田の帝を建朝氏比
子氏光の嫡男之知年小太郎と号し元弘の礼し官
軍し属しと大塔の宮の令旨と法皇朝敵追討の義
ととく大く武成と振い小業高時と始し一旅師を悉
くミナコロシ焼くしとるそり極言く湯をさうやく火く先と授る
うやく業く楠正成とあし合せ日本六拾家分の其成集
る武義相傳のあ別し新田とを時事と記述し

と云一藤倉の活款と僅二十員あり、改七一忽ち
天下泰平とゆせし、後醍醐天皇伯耆國移とて遷
幸阿蘇の帝位と仰せし是とて之を證む、伊予
と新義の嫡子八幡を仰義家貞則の負任宗任と征
伐有し、九年と経て七一武衛家衡と討て二年と
経て平らゆ、蒲の冠者範頼判友義経平家追討也
二年と経て切と遂たり、元々東夷と少く、奥州も亦
威と振ふ、運成あり、平家と西海の浪と流る、人々
去りて、容易とせしとて、数年と経たり、況言内、時政
の代より、数年、天下の情と親も、武成と振ひ、海と
吞く、一族郎宗皆染、八少く、悪く、龍と名り、馬、奴
術、く、ま、く、な、勇、士、也、義、貞、ハ、僅、く、小、上、が、世、良、田、の、故
を、く、く、一、族、郎、宗、皆、染、く、小、身、小、く、く、其、智、僅、く、百、十、浪
と、て、は、是、と、い、く、藤、倉、の、大、款、と、挫、え、ん、と、い、い、ま、す、ハ
古今、云、双、の、勇、抄、之、を、子、連、職、存、の、玉、乃、一、族、二、子、傳、人、
と、記、来、り、續、く、甲、斐、佐、清、の、活、氏、と、介、近、國、の、裁、
士、記、加、り、く、多、智、と、ゆ、り、是、ハ、僅、く、義、貞、ハ、龍、の、水、と、記、
あり、や、く、大、く、武、成、と、振、く、不、目、く、藤、倉、と、焦、士、と、記、
是、是、と、い、く、見、ま、ハ、新、義、父、子、の、東、夷、と、平、ら、ゆ、
経、見、来、の、平、家、と、七、一、の、知、相、の、教、を、く、次、也、

と引率し事あり志我と一何と云ふも後醍醐天皇
皇不徳也固く天下の武士相家と思ふ義氏も逆
をくす一と凶徒益治大と一と安軍と日々に滅
刺帝を為す氏を流謀し難きと義貞救我の切忽
ちむかひて成り遂に帝位と為り小紙を為す
程も忠義金銭のやく相款追原の謀ふと委承言
氏を意おと敷く我を武曾と振ふと之とも天運
時即ち延元二年七月我前個承九の戦い流
矢の為り意承せり時と承年二十七歳也嗚呼年
のふかき事也一宮方松石碑と一宮軍固かり流の
消ありん能く流治をさるとの事惜し我貞
世の智謀者之もまじり一矢の報知未代の報と道也
は去ら建武の始り義貞大内也後の折り白高の内
侍と恒るんより志慕深く己事と流治と
求く一その奇と神

我袖の涙り至と分教るふと

知くま井く自也何らん

因侍は方とんといと表の音色くんを教
関と将く自とたきつれさうらにや何とす
石とんつ社の折りて我貞と石と天運と流

り白高の月侍とは至るも其の初従者なり其義貞
田沼の志と遂に海をくわいて北へゆく途程を窺
を涉るは是を以て軍を起す其時高氏も時局を軍
の事と介せし事数度に及べし其時高氏も皆一の別を
と悟りしるもとうやも偏り帝殿を凌ぎしる大将に候
女とあり傾城傾國の禍と指せむは社にこそは元徳
一なるも義貞好まざる其意を事と知れば何れも其欲
り身と果えんや終るは義貞と滅せしる高氏も其
ましる白高の月侍たるを以て古語に美女の命と別を
ありしといはん少臣も思はるるは其時高氏も

尊氏

高氏の清和源氏の嫡流足利義満も貞氏の次男に
しる高氏乃初ら清盛頼朝を以て懼るる罪を又お伯
と云り其罪悪く士族若太平記に許せし事其意を
り固く是と認め大信宮と執りて其一事を以て其
悪と知るる元来高氏の性其弱にこそは知るる
し舎弟忠茂も邪智毒計を以て准后と許す帝
と欺く切とすも重賞と念り朝廷の表運し其
く己ら運命と企自然に播元を以て裁りたる天子と
なり其此の家名も代相譲りて忠臣義貞正成を以て

逆臣為成り為りて亡るるは其の非ゆらん。其由なく
若神の乃相繼ぐ漢の仁何ぞ利益あるや若
仁の雨霜と漢をハ何ぞ圖羅王為成と極んぐ云間
比國へ投入するをと自り時免毛先生寛尔とく云く
顔回不幸短命とく盗跖富く長壽也情世間と觀
小世り吾人と云る人の生涯は少く窮一飢寒に
苦く我ハ不圖災来り或ハ不慮の辱と見或ハ子
と先立或ハ親族小別も能も短命とく割難病
と又死期痛くく又ハ藥送の日風雨雷電とく
世俗小業人と流る者有り我貞正成とは歎ゆらん
又世り悪人を以て一生を不くを歡樂く流り
惡と云世を只に悪と又酒色とく耽まると病とく
身と流る能も餘命とく藥送の時小後世人と廢
け程しと尊氏世教を去ハ善長と蕃惡とく一旦天
下暗とくとも積惡の殃子孫不及く我世の名の
くく或威と天子に棄れ或を殺せれば又惡ま
過去くと悔ふは天下一日も徳なくと後に天誅はく
亡いより義貞正成不幸とく云々と遂そとく
其積善の餘慶子孫不及人多し今正成の血脈列國に
諸侯たり元々義貞の英名遠流とく海と惡

一々新代不易の法代と若くは期行かたは
是豈天松あ〜んや善氏う切と遂〜と案よく別
と割りあふの謂ふ〜ん

正成

補正成り三十一代敏達天皇五代の後胤井手在皆
諸兄公二十三代の孫橋正をう二男也宅辺〜補樹り
倭〜姓〜忠實の昆沙門の王子にありに倭と補多
門多清と名宗後〜河内も〜任と性寛仁小〜我
徳誠忠允日本同〜古今壯考の元師ありと
我切考〜計立〜以末世諸葛孔明と稱〜経済

川乃石野小英名と出〜千栄と朽と誰と
是似遊〜んやと是〜と感涙と怪〜孔バ油煙
公徽英〜先生も流乃楠呂貞ありや元正成古
今海老の良相と〜とも聖賢と記と〜池草此
級意あり何〜被以漢〜ん中と〜〜正成始
後醍醐帝是置乃皇居〜正れ〜附奏〜名ハ天下
草剣の切と武略と智謀との二ツ小〜も善習と〜
我〜日本六十余年の兵と〜武苑相掙の両國
と我を勝事と得難〜と〜と義貞小智と
〜倭う二十日の間〜鎌倉と攻亡〜就と善斗妙

策と用いし事沙汰は是も是も是正成言と夫た
る事ありあはれや又孝一なるは合戦の事あり也一且
の勝負を誓ひぬ心持せし事ありは正成言人計り
未存命者とす一正成言運と用ひし事ありと思はれ
はと云ふ言懐自懐の祝しし事あり後醍醐帝重
運開きしハ楠く切くハあはれ義貞謙倉氏亡し忽ち
天下を平りぬ一乃及帝位の上へ還幸者あり再
い御位に即位す是も是も是正成言と夫れいふ
事ありや又楠く初塔業人形木の謀古今の史談
と之とも良材の好んく事あり小あはれ小款と
も悔らる事あり況大款と云はれ是款と云ふ事あり
了必務の良策ありあはれは業人形の謀を盡しし
款と款と謙と一々新し正成言御行を止る事あり
然る事あり小是は又建武の事也筑紫の大軍と
引率し帝位に攻む時天皇を正成言と云ふ事あり
是く飛向ひ義貞と口と合せし防戦を為しし事あり
有し正成言一なるは小智と云ふ事あり大軍と戦ふ
必き味方お負へしと孝一なるは信の宰相清忠なり
拒れ忠臣と用らる事ありと懐く討死せしハ私のおりり
公と志したる事ありあはれや元来清忠ハ軍意を略し

爰見と少く志くし能く僻事と自り知りたり
正成再意諫奏せしむるにや清忠ゆき言採り
まじくいと例しる事なり利渠たす
地は討死せしむる知あり
大謀と礼ると云ふ大徳を徳と忠の難と避り命と全
ふし終の福利と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
あはれ帝不徳と云ふ忠謀と利のあり
迷ひぬい聖運と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
う事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
正成義貞二人と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
朝敵の存亡は二人の勇たをり
藤原世と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
のあはれ余ふしと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
一流と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
義貞と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
しと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
天子と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
ゆんるやと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
は古今も云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
我れ力為る事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

一死を以て大節と為る者忠臣義士なり正成は
討死ハ清忠と稱り君と人死を爲す時と義死し
て常に代りて血争の勇と稱ひ敵味方の目と爲し
死すは討死と遂なるものなりと爲す義兵兄弟の内人
弱者討死しざるは君臣爲の忠死と非ざる却て味方此
我の者として一たび一旦の敵務を必すとも討死せざるを
うらむ正成を人存命とすは是れは至運と謂ふべし
と名をこれと云ひて造りて一死を惟ん
一死を以て金たるも死と観て忠義と忘れたる果ては
大節果ては兩義ありて一死の根と爲るなりと云へ
久しきものなり死と観て忠義と忘れたる果ては
大節果ては兩義ありて一死の根と爲るなりと云へ
本と成りて斧柯と用たり方とて仇をく終りて討死せ
しは誰か爲るや子孫の爲といひ不忠不義勿論也彼福
義成が臣臣正俊と利殺せしは子の爲子孫の爲に非
ざる忠臣一途ありて戰場の討死なり成難き忠死を遂
なり至忠勇敵の振舞いと云へる金ハ正成忠臣の名有
りて福義成なり及も此等忠臣成を福義成と云へ

情正成切なく討死し多多年しく忠孝一時に失ひ
 たりしを遺恨ありしハ親皇を祀ハ猪皮子念院と
 曰く油畑正成とすハ英和を祀とハ和と和と
 まるがや正成死し先づ官軍に属し僕の味方なり
 指籠り小智とすく東國の大軍と戦ふる時ハ誘
 走く友軍に属するもの原大也也義貞ハ朝敵の扱と
 信としともみろとは正成とすハ既ハ漢の宣祖の二
 條張良蕭何韓信とすハ時に敵多元師たる事云
 及も元公君臣見仰り清忠と忠しく討死せしといふ
 ハ高直侍事之士ハ死を名に討死せしハ死し猶も此
 有るなりと正成討死しハ或は忠義とすハ去ハ若く徳り
 清忠印と礼し准后印と被り重運終小頼ある
 事歴然たり正成討死せしは義貞の如く君に控ま
 正成の印と忠ちを名に討死し正成死する時と知
 討死と遂しハ智者勇者忠者元来空期し陣に死す
 正成造ら乃忠義の志ハ日と昔きたる事正成平記
 と讀み感涙の洞とすハ事なり徳と子孫に傳
 三代節義と守ふ所ハ正成死すとも死せし漢
 川の石牌小武徳珠忠統とすハ弟世に朽骨是と
 しく難倫後世の英雄たる事と知る處ハ朽言ハ徳の賊

かり邪僻の足とくく様く世くくをくく

俳人

昔唐く仙人と云者者く隠くを隠く奇妙なる事
刑と刑くく書く著く画く詠ふと見たり
或る落く家く室以細く細く家く海と波り程り
家く流とせり或る我形と吹中くく見又航ふんり
駒とわく石とあく羊とわく羅と切ふ標とく
舟と酒とさく刑を奇年とくとも我刑く似るり
人見と家くくふと世を亦皆有く舟と亡く彼物程
乃輕信くく色虫の他もくくせり航使令

とくく知術と行ふ有くや信是と飯匙と
云中と忽ち海とふし源平の海の新軍も新勢
と歌く失神周の夢と信を盡くく天北の
奇ありと正々に只く我脱くく極大と踏み代
波りハ上利波りつまたに家く海と波るる程とく
うく我を紙く家く虚をくと翅を天の川の雲と云
く帰るく黄鶴仙人く落く家くく細く微笑ふ
屋く又形と変くく龍とあり松招おの程う形以吹
出くもわの敷くく況張果老が航ふんが弱とく
く見世もくく馬の籠ぬ事より若る屋く責

文程の流とありし篇の二書史少考之より、楚考高の
 程よりありし、呉程の車よりありし、海と滔るも女よりあり
 し子とありし、つらうし、次ありし、張果充の羅と切し、陳
 し、なすし、初年う石とありし、羊もありし、互難うお玉小同し
 仕ぬ、何れは怪むし、是よりや、長生し、之とも又並たし、
 彭祖の八百果生多同し、四十九人の書お十余人の子とこ
 い、然し、あ、いし、長命を祝多し、し、荘子う、さし、も、
 向し、し、や、顔回不幸短命也、と、言共、徳は、彭祖より上
 出も、然ハ、身死し、し、英名朽よりと、仕、と、言、厚、道、の、新、名
 し、老、多、死、せ、ら、ら、ら、仙、と、言、之、も、量、充、く、孔子ル死
 生、命、有、と、さ、り、命、の、精、氣、の、天、教、あり、し、し、強、く、長、身、と
 求、得、多、う、し、た、を、ま、し、ハ、長、生、は、仕、他、業、と、後、し、し、如、く、
 祝、の、名、の、毒、と、殺、し、非、命、に、死、せ、ら、ら、ら、の、を、は、く、も、あり、た、
 元、く、仙、法、と、言、ふ、ら、の、殺、と、食、は、水、の、実、草、の、根、は、食、
 し、或、は、鹿、と、食、は、た、言、と、吞、く、生、と、保、つ、と、言、ハ、異、り、
 是、し、た、世、り、大、穀、と、食、は、も、菜、と、食、し、或、は、水、汁、と、吞、
 了、命、と、保、つ、ら、の、性、く、有、う、と、言、り、地、性、を、ま、は、土、中、し、
 し、し、言、を、食、して、死、せ、た、況、や、仙人、胎、息、胎、食、は、樹、等、
 川の、修、若、外、丹、内、丹、の、良、菜、と、後、せ、ハ、長、生、九、品、也、
 六、難、却、に、千、年、は、人、参、此、根、ハ、人、の、形、と、な、り、千、年、の、杓

把力根を物の形とたゞ中夜の時に出く遊戯ハ
〜是と食ハ必地仙と成能共其二相国意ハ
又得能〜と在傳ハ女道士師オ人深山の中ハ居
るを能出〜井畔ハ汲ハ當に一ハ嬰兒と云ハ師
ハ強ハ師抱ク一ハ一ツの木の根ハ成師大ハ
高ハ火と没ホ是と煮るハ海ハ熱セたハ有ク種
〜と〜り下〜並成化ハ師門ハ出ハ水大ハ漲
通ホ事と海を能候子色〜高ハ下の言と少番也
逆〜是と食ハ二日ハ海ハ是〜思時ハ水能ハ師還
るを能已ハ死昇ハ又推揚ハ新ハ是人の老皮
者考〜元の酒家と授能一ハ元遊具と治ハ可都二人
数人二體と捧〜むるハ遠方小兒ヲハ蒸ハ水也元
噫〜〜食セ道正思〜法〜と能候ハ是則能是〜
是と食ハ既〜〜其師〜と諸ハ者小別〜之
〜食〜〜むハ〜謂曰〜是千葉の人參持把ハ求
〜意能〜是と食ハ者ハ白日〜天〜昇ハ我法公
の延遇と感ハ持〜〜歩能ハ能ハに食セ〜信ハ
〜仙方の難ハ事〜言ハ〜ハ小群ハ此〜
〜童玉女と〜道正と推〜上昇ハ是ハ言ハ
是〜あ〜知事能ハ又是と知事ハ會ハ〜と得

老子及い可老ふらうと云く是と得申り崑命一
此をいへ何と云へり可人參柏杞の良薬一々千
年と經ぬまは是と會一々もと壽の壽命と延へり
事疑ふる一々此二物と會一々老子と此一可老令
童玉女とめ一々天より昇らと云らと恒流之葛澗の抱
朴子一々曰く此の藥を忠孝和順一信といふと云へし
若徳と徳と一々一但法刑と勢一々長生を云ふ事
と云ふと云へり徳一々此徳の可老千年の人參柏杞
といふ一々一可崑命一々一可人參柏杞と云く
丹水石室有り端端のたふれ此例多一々巨薬のたふ
乃ハ集り付り倒一々一然る也崑命と云く一々
一々一末一々崑命一々一此徳一々一むと云へり崑命一々
大なり備一々一信と云へり一々一書言及事一々一塵世の
外一々一可一々出らと神徳也一々昔人云るをあり一々
崑命人あり一々一や云へり一々一疾毒身と云へり一々一此一山一
道一々一名利と避事一々一在思夜樂の情一々一也樂一々一芳
世一々一蔬食と會一々一玉情と縁一々一也一々一事一々一可一々一
本と友一々一可一々一此一々一此一々一可一々一此一々一可一々一
の移と云へり一々一可一々一此一々一可一々一可一々一可一々一
一々一可一々一可一々一可一々一可一々一可一々一可一々一可一々一

一々一可一々一可一々一可一々一可一々一可一々一可一々一可一々一

病夜死衰憂患と陰をそとせりと穿く交ふる一月
の中く三世なる過るのこころや山居の樂
と若くも色慾の思紅風の音にふも遊と高ぶ
の口結ん終く塵世にゆり紅雲舞花と散る後と欣
寧と吞く死時の刑とけりて之を彼一つの迷い止能
く久年の仙人ル女の位の位と見く忽ち法を修
し四海の都府と都府をすり刑有し一角仙人ル龍陀
羅女と執りて通りと夫の法蓮の費長房元童を
く世道を授け一つの若く得て是とすく宗業とな
る正鬼と制後せしうそは急の爲くそがくと過す
却る正鬼と犯殺さすし十人なる是は徳と修せり
ろのくを羅の方便人志練の位刑のく人よとから
し時く一矢と為るる晋の王質と云撫史山中と云
他人の夢と因とんく居るふしき一馬の夢終る
さうに王質う持し斧の柄う朽しうは驚く家に内
まは己に七世と経くそへり盧生う苕梁一睡の友
りうはうかす有極憐むるは世をまは古詩り

人説仙家日月逢仙家日月轉堪悲
誰將百歲人門事唯換山中一局碁
漢小王質仙境へ入る千歳と経く神仙の北

軍とあり、長生の中、受有る者、小只一馬の春とつる
由、七世と経より、長生にち、つる、長命と保つ
り、云と、浦流う、蒼菜と入く、七日経く、云と、七世
と送り、別へ、仙女と貰い、玉冠と用く、忽ち元妻
く、百年の齡と只七日、保く、王侯同日の経り
く、いと、喜まふ、か、新之七世と、云と、大略三十年
と一世と、云と、云と、王侯、浦流う、七世と、元武、七十年
か、云と、武、内大臣、此、三、七、古、余、宋、然、も、乃、神、ル、健、也
く、く、六、朔、小、住、く、多、り、も、多、り、の、神、心、と、云、云、一
仙、法、の、美、菜、と、彼、ら、の、沙、流、か、ま、り、も、の、新、の、藤、願、う、年
八十、菜、く、及、く、弟、を、り、社、内、の、心、と、喜、び、く、云、く、天、下、の、法
儀、是、と、思、ま、く、放、て、終、の、終、と、祀、う、云、く、一、仙、菜、と、彼、し
多、り、沙、流、ル、か、一、元、来、命、の、情、報、乃、所、活、弱、ら、天、性、く、巧、み
た、と、い、仙、菜、と、多、り、長、壽、と、保、つ、り、武、内、藤、願、う、く、天、下
く、切、り、く、王、侯、浦、流、う、く、馬、鹿、く、名、と、云、く、中、俗、の、大、多
く、藤、流、う、云、く、一、く、一、く、是、也、一、浦、大、師、八、十、九、弟、く、一、く、新、朝
の、為、に、討、死、一、沙、流、別、高、実、望、の、中、之、菜、に、く、紫、菜、と、墨
く、深、く、我、死、く、く、長、命、の、甲、斐、何、く、後、の、小、角、菖、菜、と、云、く
和、菜、と、喜、一、密、心、を、持、く、一、知、樹、と、祀、と、一、く、一、く、も、正、中
ま、の、神、心、く、多、り、也、也、と、終、く、日、大、事、と、云、く、美、國、く、活、り、新、撰

法師の言治ふく入るが流く事く事く形去る此の仏
者の偽也法因法師の奇にしく面路の夏公の奇に木の形多
るを母と天地と動したる松を大橋也奇妙を昔邪法也
是と知る處く只奇妙くともさく後と説くのも也情也た
和道也く仙術流行せしと見えあり今も推れく世一統
く仙術と事ふ也をく仙家の子女沙九日納信の仙術り
為さるる事一の術親も仙術のうくやうと成り西王母
此の構く手振の籠にわたりわりの鶴も南樓の鶴も有る
坐壇あり有る仙術も推くともさく忽ち夜く来る外
唐鳥のふりやうくくく仙術と事ふはあつていふ
事たり浦島も災く草薙の仙術も女群くありと災
仙術も有りはうり日経も推く後伯高も浮本有り子も猪牙
舟有り是皆仙術也白立く人の腰に付く巾着と切通
楊の仙術あり賽と投く乞目と出さる情也の仙術
也事り世氏色々の仙術有る事ありにいふあり彼玉也
松も逢平山く推く魅く事ありありんといふか

宗満の人

自撰毀化の佛の十重禁戒の割法と事くくいう事さく浄土
宗日甚し宗事く念佛取目の指巻と満く保く此法の形と
記もくや元来佛法の源ハ燃焼一流くく何一流の

法をくそ汲りて其水波の濁もせんや古来く

くそ水の濁り禁のまじりあふ道也

あまのくそ井の月以てそんりて

画あまのくそや水と濁りたる

とくそいかなるそくそ川乃水

悪老元より以法の甚深微妙を知りて其まじり奇のいと

推量するにそけの月り禁の道にまじりてそくそくそ八宗

十宗と分れりまじりてそくそくそ浄土唯心の浄土

そくそくそ最は唯心の浄土を新く其まじりてそくそ

そくそくそ戒りて佛のそくそ二章経のそくそ殺生偷盗

邪淫妄語偽證悪口為を貪欲。嗔。癡。慢。疑。十惡の難下

は演難切下と克徳のそくそ後と悪く戒りてそくそ浄土

そくそくそ中受のそくそ元生は演難く行るやそくそ

七惡空の臨りてそのそくそ唐の白樂天の詩のそくそ

難水くそあまのそくそそくそ人情友愛の問くそ有と云

そんるは難下あまのそくそそくそ佛の諸宗元祖達摩悪口に

臨り元来とそくそ浄土のそくそそくそそくそ

そくそと被りてそくそ教化のそくそそくそ日蓮とそくそ

そくそ末世の元生の信情と徳吞也。惡に隨り法を流すそくそ

そくそそくそ浄土のそくそ留りてそくそ法華經の題目と

ふんをいふにあらんと心得ると止むと修業と分り
しん禁戒し宵ふふり懺悔のやく毀りて我
後悔執ししつ習業とすりの教よごりて我は族に
誅法の死ふまは墮獄の基ありて勿論に流れて
凡類同の防もゆが類同の禁留とせはしん無量の害り
るるししや何れもは如く指し確執し及んや悪業暗昧
の凡俗を痛むるに足るを我らに傍の身とすしん心
事しし進まや最佛法の本とすし遠い習業とすりの二
眞とふしん背原ししと決しし定しは光の心とすし
志有るし今より必自壊毀化の如きと斃しし物我
隔るし最佛類同多や味し名も夫とすし漸く
谷川の如く急しゆのや和吹しし多量ありし類同
しし但しし唱へ習業とすりの二業流しし便りし
し寂光浄土し性生ししとめし油燈と荒れしし
殊し先生の言ふや日蓮の二宗ハ流の火と格別
族中しんをいふ指しし口業の死と死し地獄の種と
あしむしし我ら中しし殊しし先年天作と
しん諸教日蓮宗とすし名と名と名と名と
し日蓮の本像とすし日し信と信しし信しし
め刺ししとすし少擲しし信しし信しし

日蓮の像と匂り歩擲をせば又夜少くも日蓮の尊々の
座と歩武を望み只痛く及い果ると色沙汰とめて寺
院強勅し及いし事予若年の時之受せり初て初信と
招き禱敷と祝せ仏像安置の乃場と夫と彼句の街と
如は恒信の心の社といひ其は終南村も天作の流の水
汲禱修信法と有と少くも言ひまじ日蓮宗の法修信法
然の本像と雲歩擲したる沙汰のふらと夫らとの結
勝之是と少く淨土宗の法修信法と事也一年尾
州より因通とる淨土宗の信は片も来り本不言り
る祝法せし高世法修信法と事也と事也と佛と意

病人と教化より宗との法とてとて殺し此をいふ事や宗は
の兼る故に如く日教と雖ハ倭くさうと如くと云とてや
其れく仏法も流季に成て天作の如く其の如く其れ
ふらと事也と云らる事と天作の如く其れ如く其れ
擲とる意と介及法修と事と共く地獄の念集と事と
其れ如く事也と事と其れ如く其れ如く其れ如く其れ
公の如く元来地獄修法と事と事と事と事と事と事と
法の十戒と事と十戒と事と事と事と事と事と事と事と
一十戒と事と事と祝世の地獄と事と事と事と事と事と
十文位士の事を修修事と事と事と事と事と事と事と事と

ら中人の子有らと疑ふる小遊と允世小子福志と云
ろくとの十人の子有ら却りも人く多者とも二
十人に過ると悔を皆起り一彼一此にあふは晋の妣也仲
ち子中或人者吐谷渾ハ子六十人者とも妾腹小く
一腹小く遊ず教元推紙く魏の姫は多一孕中
何物有子正二十とくり古今帯成る事也と六雜廻
く見くゆり又物物志く之る賢却り此の流ら怪談
小く信ふは然るに免子母神の子人の子八年子
くくくも千年の長壽く遊をハ設けらるる紙も
生成る男女交合のまじり年終は張り有る一或後漢の
之等ハ九男を陽外と云ふも世に重陽有りはくハ五ノ
左中く少く陰字と云く少陰の數少くハ月小く陰
と云くハ柔くく腎字実く陰字有り二八十六柔く
く陽精也く道く交合と云ハ子と後年ハ八十六歳
く陽道陰由女を陰字と云く生るは中く陽字と
合九少陽の數く七の數と云く七月小く陰と生
く七柔くく腎字實く陰字有り二七十五柔く
く月水通くく交合と云ハ子と生る七七九柔く
く陰及後由月水通くハ陽精流るも皆信陽自
能成性也とくハ天竺の人と云く在野に遊るは

御子母神長生... 宇九... 御子母神長生...

八年子... 臨臨十月... 臨臨十月...

七月八月... 御子母神長生... 御子母神長生...

二子三子... 御子母神長生... 御子母神長生...

記... 御子母神長生... 御子母神長生...

御子母神長生... 御子母神長生... 御子母神長生...

御子母神長生... 御子母神長生... 御子母神長生...

御子母神長生... 御子母神長生... 御子母神長生...

御子母神長生... 御子母神長生... 御子母神長生...

御子母神長生... 御子母神長生... 御子母神長生...

御子母神長生... 御子母神長生... 御子母神長生...

御子母神長生... 御子母神長生... 御子母神長生...

御子母神長生... 御子母神長生... 御子母神長生...

御子母神長生... 御子母神長生... 御子母神長生...

御子母神長生... 御子母神長生... 御子母神長生...

御子母神長生... 御子母神長生... 御子母神長生...

御子母神長生... 御子母神長生... 御子母神長生...

御子母神長生... 御子母神長生... 御子母神長生...

御子母神長生... 御子母神長生... 御子母神長生...

御子母神長生... 御子母神長生... 御子母神長生...

かゝる者程ハ一體初高のその系の禰の成代女の誓と合
息して鬼子女神の子人の子も離れしふ急の教と心得
子育の利生と云るよ人の子も育るも切者あるハ頼む所
但鬼子女神も男女配偶の利益有と云るいふう一類は
神も縁結の形をとりて女も貞節を帯り元より男
女配偶の事と父母の計い勿論の事然とも浮屠淫此
の女華と世と世と男も活なきが或は父母の目と操り室
怒りて男も夫婦の如く邪の教と神仏も祈る事意味
の怪癖をまじハ論を多に足らぬ素より神仏も此世を
父と母と鬼子女神邪の教と細文と云るや誤り也
怪も仏のまじり世を成たると鬼子女神も仏の教法と此
しく怪風の教と利益と云ふるを不幸と云ふ縁を
女社の教と細文と云ると鬼子女神の堂と教と云
の爲と奉祀したる女の細工也且子育の教に上る小児此
小社社の教と云ふ一又此教の男女縁の時一何事
法も一と云ふを教と云ふも何事か一近且此社の
凡の事偶人も何事か一法も細文祈禱後背獲魔大共
何事も皆急の教と云ふ法も細文祈禱後背獲魔大共
の事也此類の教と云ふ一と云る者らんやまう中一長教自
一夫也此神文と始と云ふ二十番神文書加ふる事也

了多や元来右神宮を仁法とせり。家廟も信尼と稱す
一玉一巴野自ら神号と兼へり。只此祀也。神明と也。是
らうに似たり。但し。あ祀。智念の社を別高と信たり。ま。如。論。信
尼と也。世も。是を。初。清の。神明。たる。ま。八。家。廟。い。く。ま。い。ん。な
ま。い。ま。い。あ。ま。い。一。祀。ま。い。八。野。自。の。神明。と。と。い。あ。事。傳。を。ま
一。野。日。蓮。神。國。と。ま。ま。い。仁。ま。い。神。の。心。末。を。り。ん。元。祀
代。り。氏。神。と。稱。す。新。氏。小。入。あり。い。せ。ま。い。神。恩。と。忘
ま。い。ま。い。ま。い。為。す。神。号。と。野。自。と。書。加。ふ。ら。が。ん。信。正。日。賦
空。海。の。身。と。尊。く。本。朝。古。意。の。偏。を。信。人。と。為。す。い。ま。い。ま。い
淨。夜。と。忘。一。帯。と。い。く。神。と。也。せ。一。と。之。り。日。蓮。と。出
形。正。と。同。意。と。求。ま。り。あ。り。然。り。あ。ま。い。仁。者。の。説。く。天。皇。神
と。本。地。野。自。の。野。自。野。の。所。神。祀。也。と。之。り。然。ら。ば。日。蓮。宗
と。も。神。た。る。の。節。あり。佛。家。と。も。仁。を。本。地。神。の。室。跡。と。て
仁。を。神。と。也。い。く。元。と。利。益。と。い。く。説。法。と。本。地。の。説。あ。ま。い。ま
一。野。智。念。智。念。の。妄。説。也。也。一。ま。い。天。皇。を。神。と。野。自。野。祀
あり。本。地。神。代。と。仁。法。と。い。ま。い。あ。り。ま。い。ま。い。ま。い。野。の
實。傳。の。傳。成。り。明。あり。う。て。祀。は。慈。徳。和。尚。は。本。地。室。跡。の。説
と。用。い。ま。い。遺。と。ま。い。ま。い。一。仁。あり。ま。い。と。誅。せ。一。と。あ。り。或
神。家。の。ま。い。ま。い。六。指。清。淨。の。極。と。ま。い。ま。い。六。指。登。大。連。の。説。く
一。と。後。人。の。他。を。事。疑。あり。ま。い。一。六。指。清。淨。の。は。ま。い。ま。い。説

佛の語を事明くするなり且は後の天竺或神の祀を大傳
耶の命傳く少くし一傳る事なり旧事記に有則神祀
と新しきもの按る程ハ諸法新と形の思と云ふり以下諸從
因果と云ふの二十字を以て別異礼儀の文の福と云ふ
不空三藏の他と云ふも事あるなり然りと云ふは福
の中と三種の神意の種と云ふは解凡人有說法新像
と云ふ神禮の種と云ふ法像と云ふ縁ありと神意の深
白したといふ説ふは皆從因果と云ふ成ると云ふ神意
の變新と云ふを云ふは神礼と云ふは實合あり
何と云ふ説く神禮と云ふは一と云ふと遠い者なり
高と云ふは日本の神礼と云ふ天竺の仏教と云ふは
高と云ふは神意と云ふは神の尊ぶありは神
教人何と云ふ得所なり大傳と云ふは神意を云ふ高の知る
神代の是或は日本記皆魯の先代書に日本の神傳の云
仏の社の云ふは神を主と云ふ別處なり神を主と云ふ
店の如くは得別處と云ふは神と云ふは神と云ふは
實に神を主と云ふ馬鹿と云ふは神を主と云ふは
禮幣と云ふ塵拂の如く名を以て大造を名と云ふは
と云ふは門に立ち神を主と云ふは神を主と云ふは
と云ふは佛の如くは佛の如くは佛の如くは佛の如くは

と云ふは佛の如くは佛の如くは佛の如くは佛の如くは

尊の爲神にあり又を修くまじく不修徳は凡そ日本人
 と世修くし中を傳ふに似合ふる所ありんが仏の法力
 とて元生と世修をまじくするにまじく神に似く神威
 とりりるゝ人後多しとは申すも所を修ふとい者も有ま
 一 元神代より元來神の人こそまじくありて又と勿論神の
 仏に似く似威と備く神とて思ふ所ありしをいふらる
 少く神に似く正を有振とて人々と神とをまじくと他と他
 神智とてまじく神曲くを死なす元來神に似く神のま
 ありに似く人の道行り人々人の道行り神とてまじく事
 とたをまじく正道に有るは況や、仏に神とまじく又人
 小ぢけ牛馬とてまじり、皆執程の教に新迦り魔術とて
 去るまじり者ふる法あり、勢至とて法の二菩薩といふ中
 縁ある日本の人と神と人と法と又と日蓮小化を仏賢
 とては爲く思ふと貴し、勞せしを末世の坊々共く貴し
 人々後とて世に自然とと神ととまじく教とてとての
 しと満ちて見ゆしは事あり石二芥とるんまじり
 一 楽く地獄の神の法合はを差あり彼と見るとんまじりハ
 神の世修者もハ極楽に往生す、仏に似く神の樂と神
 とまじり、神の法を先達別法の要要とて、必極樂の法
 去るまじり神の徳とて、名聞と法と極樂の樂と神と

〆

な〜寂光淨土の七宝莊嚴臺の巖石の如く勝ると言ふ
小石は豈勝といふの易なり一味の爲に佛の如く凡生
滿面の苦と求〜は方と苦〜や

論語讀

依美く清ありん清小僻より清ありん折々恵く廉ありん自己
〜僻より清ありん清小僻より清ありん折々恵く廉ありん自己
皆を僻より清ありん清ありん〜と見〜ありん況や庸人〜ありん
や淫く穢りありん〜や惡老或時〜平家物語の評判せ
〜書〜と見〜何人〜ある〜は物も或文二道の達人
〜と見〜〜古今が名物と楠正成は稱賛せ〜九折

判官義経と初〜〜源平〜名なき良將勇士の戦場
の仰り悉く論〜は軍〜仁某〜礼者〜とある〜或時〜
拙〜被戮〜渠〜礼る大抵の七〜と文〜暗〜初〜と見〜
高〜處〜新計〜必々〜暗利ありん〜と七書の語と〜
傍若無人〜清まる者極極長韓信〜抑肝と出〜ありん
〜知〜は人治世〜生息〜命〜血真き目〜意は唯善義
と初〜自讃〜其の上〜女社〜〜大言の〜と〜珠の
烟水練衣〜物も〜と云〜と云〜被記の品望諸翁
と新種の元帥と思ひ〜試り〜人〜皆惡疾叢生と出
〜と見〜〜平家〜被赤の物と備〜似〜と重賢

と云へとも形骸を浅らざるや中と世故能浅る人、好ぶ
く戯れの筆拙し、百く是は文庫の又、人の目
く好れざるは、語鄙而も秘爲るに由ると元より顯るを廢棄は
我意の常、少くも言急を、世に事あり、云
ふ、あ、仁教と守ま、孔子具と浅り、ち、さ、さ、い、わ、知、と、
浅り、礼儀と、ち、ま、い、を、作、み、と、浅り、ち、は、花、は、横、年、者、と、浅
り、知、と、出、せ、い、言、出、者、と、浅り、操、道、を、ま、い、不、巧、者、と、浅り、信
と、ち、ま、い、馬、鹿、と、の、と、浅り、ち、さ、さ、い、不、実、者、と、浅り、道、性
と、ち、ま、い、程、必、者、と、浅り、ち、さ、さ、い、い、市、者、と、浅り、席、を
と、ち、ま、い、ち、ち、あ、る、賢、と、浅り、ち、さ、さ、い、信、拘、と、傍、る、儀、物、と
ち、ま、い、^{リ、シ、ヨ、ク}各、番、者、と、浅り、ち、さ、さ、い、花、は、放、場、と、の、と、浅り、多、能、を、也
ハ、万、能、一、心、と、浅り、必、能、を、さ、い、穀、つ、や、と、傍、る、書、と、傍、る、知
つ、く、教、と、浅り、淺、さ、い、文、盲、と、傍、る、根、回、と、ま、い、入、り、か
う、と、浅り、子、合、を、ま、い、バ、性、と、の、と、と、し、ち、初、礼、ハ、自、練、と、の、と
浅り、弟、を、ま、い、ハ、言、信、と、の、と、浅り、信、ハ、偽、屈、と、の、と、浅り、信、を、ま、い、
自、強、を、ま、い、と、浅り、能、を、ま、い、ハ、上、の、者、と、浅り、毛、相、を、い
ま、ハ、毛、を、お、と、浅り、勇、を、ま、い、ハ、一、強、者、と、浅り、長、和、を、ま、い、
い、り、者、と、浅り、性、急、を、ま、い、バ、我、を、信、者、と、傍、り、性、緩、を、ま、い、
巧、り、者、と、浅り、利、口、と、ハ、口、さ、う、と、浅り、相、つ、と、ま、い、ハ、倭、人、形
章、と、浅り、世、事、賢、を、能、ハ、不、と、い、ふ、と、浅り、世、事、疎、を、ま、い、ハ、愚

味とのと浅り清志とと生福とのと浅り濁るをまは志を
志と浅り富志とハ後ふくましと浅り貧志とハ不覚者多
乏神と浅り縮志とと不忠と浅り忠とちまハ福とぬ
浅り孝ふあまハ負志と浅り不孝たるまハ人非人と傷るを妻
く従志と浅くも親善とく子と浅くも妻のたまハ妻と浅く
ま師懦弱なきハ弟子と浅く別高と神に浅くも
女所と浅り行目と盲と浅り虎と傾倒と浅り相撲とと
傾倒と駕籠舁と川越と浅く居るん物とと浅り馬士と
眠る志と浅る婦人子ムと医志とと揚る器とと浅り天文志と
船の志と浅くも金貨とと金儲と浅くも思客と傾倒に
浅くも俳仙作と連歌和奇とと浅くも漢方師と左友と浅
り降福理のうう三味線深く浅くも権柄と鼓打と浅り手
書と筆と浅り繪巻と紙と和紙と汁と浅り料理人
と庖丁と浅り新と換ふまは神と浅り風雨ふ暇ふは夫
と浅り花うらと清と免まんやま中とん福徳徳と偏
浅くも浅る盲人と目明きの多うと浅るも一盲人と
く富志とちまらん目明きたくもとちまらんや取ら目
明きの多志とちまんとと顔氏家訓と孝者と牛元の如く
成るとハ麟角のやいととと浅くも道と水とる偏徳徳

の海鏡知りども必ず有り一つ古く人に方か犯ら奇きし

海鏡の文の海鏡もほらくまし

海鏡も同く海鏡も同く

原の書成りも書藤の那しと得るも牛乞の数り

いふ事事少し

世書鳩溪翁ノ戲作ニ而秘置也一世ノ後

枕中ニアリシヲ予請得テ藏セル莫久シ依テ

後記ス 萬象述

海鏡の事事終る

是を書し者はニや目凡末山人述本林羅亭萬象にて本林山中良たらん

か然らされは初代因東山人平賀源内の遺筆にして本文辨假名交りにて此書

云々と書たらは片假名交りなれば萬永ならべし彼が著者玩球註及び目箇算

五教私記の印本自筆の版下に假ら其佐たらが政可

海鏡の事事終る

